日本沙漠学会ニュース

OASIS 25(1) 2015
〔No.90 June 2015〕

News and Communications of
The Japanese Association for
Arid Land Studies

おあしす

日本沙漠学会 平成 27 年度 学術大会（5 月 23 ～ 24 日　秋田市カレッジプラザ）

上段（左から右へ）：大会実行委員長の縄田浩志氏，実行委員の石川祐一氏，片倉邦雄氏より片倉もとこ賞のメダルを授与される大場章弘氏（学会賞奨励賞），松井佳世氏（ベストポスター賞，小島紀徳会長と並んで）．

中段（左から右へ）：参加者集合，エクスカーションとして披露された竿燈演技．

下段（左から右へ）：公開シンポジウムの日高　伸氏，小松　守氏，渡部光哉氏，市嶋典子氏，エクスカーションとして訪れた秋田大学国際資源学部附属鉱業博物館．

日本沙漠学会 2015 年度 第 26 回学術大会（25 周年記念大会）・評議員会・総会記事（総務報告）

◇ 2015 年度学術大会報告

2015 年 5 月 23 日（土）～ 24 日（日）に秋田市カレッジプラザ（〒 010-0001 秋田市中通 2-1-51　明徳館ビル 2 階）にて第 26 回学術大会を開催した．本大会は学会 25 周年の記念大会であった．

5 月 23 日（土）における学術大会では，研究発表会セッション 1・2（発表数 8 題），ポスター発表コアタイム（発表数 12 題），総会，学会賞授賞式，公開シンポジウム，懇親会を順に開催した．総会内容は以下に資料を添付した．尾崎益雄会員を議長に，議題① 2014 年度事業報告・決算報告・会計監査報告，議題② 2015 年度事業計画（案）・予算（案），議題③その他，について各々審議し承認を得た．

公開シンポジウムでは，「秋田と沙漠」をテーマに，「中国山西省アルカリ土壌改良の紹介と中国の不良土壌修復に係る今日的課題」，「沙漠の動物－ラクダの話あれこれ」，「沙漠にはすべてがあるーベドウィン」，「平和構築と日本語教育－シリア人日本語教師の語りをてがかりに」，「展示活動を通じた交流－国立科学博物館における企画展『砂漠を生き抜く』を通じて」の 5 講演を行った．その後，懇親会を秋田ビューホテルで開催した．懇親会中，ベストポスター賞の授与式が行われ，松井佳世会員ほかの「カザフスタン共和国アラル海地域におけるサクサウール植林圃場の土壌特性と生育の関係」に授与された．さらに，鳥取大学における次期 27 回学術大会開催予定についての案内がなされた．

5 月 24 日（日）は，研究発表セッション 3・4（発表数 8 題），学会賞受賞者記念講演，研究発表会セッション 5（発表数 6 題）が開催され，閉会式で 2 日間の学術大会を終了した．なお学会賞は，大場章弘会員の「景観生態区分による村落レベルの牧草生産力の評価」に対して奨励賞が授与された．学会賞授賞者には，副賞として片倉もとこ賞によるメダルが贈呈された．

◇第 28 回評議員会報告

2015 年 4 月 17 日（金）東京農業大学世田谷キャンパス（生産環境工学科農業ロボット工学研究室木工室内）にて第 28 回評議員会が開催された．小島紀徳会長を議長として，① 2014 年度学会賞の審査報告（学会賞選考委員会・白石雅美委員長と豊田裕道幹事より説明），② 2014 年度総会資料提出議案について（鈴木伸治務担当理事より説明），③その他，について各々提案され承認された．

◇ 2015 年度日本沙漠学会総会報告・学会賞授与報告

総会報告･･･5 月 23 日（土）13:30～14:30，秋田市カレッジプラザにおいて開催した．正・名誉会員数 324 名に対して，出席者数 43 名，委任状数 109 名，合計 152 名で総会が成立したことが総務担当鈴木伸治理事より報告があった．総会の開催にあたり小島紀徳会長より挨拶があり，その後尾崎益雄会員を議長として選出し，承認の後に議事を進行した．総務担当鈴木伸治理事より 2014 年度事業報告がなされ，続いて財務担当矢沢勇樹理事より決算報告，そして中村徹監事より会計監査報告が各々説明され，その後承認された．さらに，2015 年度事業計画（案）・予算（案）について両理事から説明がなされ承認された．また，学会賞審査報告が学会賞選考委員会白石雅美委員長より報告がなされ，学会賞奨励賞として大場章弘会員の「景観生態区分による村落レベルの牧草生産力の評価」について審査経緯の報告がなされた．

学会賞授与報告･･･総会終了後，平成 26 年度日本沙漠学会学会賞の審査報告（内規第 5 条・細則第 34 条）に基づき，大場章弘会員の「景観生態区分による村落レベルの牧草生産力の評価」に対し，小島紀徳会長より学会賞奨励賞が授与された．副賞として，故片倉もとこ賞のメダルが贈呈された．

◇総会資料

1．2014 年度事業報告・決算報告・会計監査報告

(1) 2014 年度事業報告

1）会務報告

a．会員　　2015 年 3 月 31 日現在，会員数は以下の通り．

名誉会員：5 名　　正 会 員：314 名

学生会員：58 名　　賛助会員：4 社

購読会員：7 機関

b．会議

(a) 日本沙漠学会 2014 年度総会

2014 年 5 月 31 日（土）東京都市大学横浜キャンパスにて開催した．総会の概要を「おあしす」No.86（2014 年 6 月）に掲載した．

(b) 評議員会（第 27 回）

2014 年 4 月 18 日（金）東京農業大学世田谷キャンパス（7 号館 1 階木工室）において開催した．議事概要を「おあしす」No.86（2014 年 6 月）に掲載した．

(c) 理事会

2014 年度中に第 114 ～ 118 回理事会を計 5 回開催した．第 114，115 回議事録を「おあしす」No.86（2014 年 6 月）に，第 116 回議事録を「おあしす」No.87（2014 年 9 月）に，第 117 回議事録を「おあしす」No.88（2014 年 12 月）に，第 118 回議事録を「おあしす」No.89（2015 年 3 月）に各々掲載した．

(d) 編集委員会

沙漠研究 Vol.24 No.1 ～ Vol.24 No.4 を編集し発行した．2014 年 5 月 30 日（金）成蹊大学にて編集委員会を開催した．2014 年 11 月 17 日（月）および 2015 年 1 月 26 日（月），編集委員宛にメールでの定例報告を行った．J-STAGE での公開（オンラインジャーナル化）に伴う活動を行った．2014 年 7 月 18 日（金）に，森尾編集委員長，酒井副委員長，菅沼事務局担当が科学技術振興機構（JST）を訪問，J-STAGE 登載に関する打ち合わせを行い，8 月 20 日（水）付けで利用申し込みを行った．JST による審査を経て，10 月 14 日（火）付けで優先登載が決まり，2015 年 1 月 16 日（金）に JST と覚書を交わすことにより，J-STAGE での公開が決定した．Vol.25 No.1（2015 年 6 月）から公開される．

(e) 学会賞審査委員会

2014 年度の学会賞審査委員会を 2015 年 4 月 17 日（金）に開催した．また 2014 年 5 月 31 日（土），第 25 回学術大会におけるベストポスター賞の審査を行った．さらに E-mail などによって委員会内における情報交換を行った．

2）刊行物

a．日本沙漠学会誌「沙漠研究」

Vol.24 No.1（2014 年 6 月），Vol.24 No.2（2014 年 9 月），
Vol.24 No.3（2014 年 12 月），Vol.24 No.4（2015 年 3 月）

b．ニューズレター「おあしす」

No.86（2014 年 6 月），No.87（2014 年 9 月），
No.88（2014 年 12 月），No.89（2015 年 3 月）

c．日本沙漠学会講演要旨集

第 25 集（第 25 回学術大会，2014 年 5 月 31 ～ 6 月 1 日）

d．学会ホームページによる情報提供

学会ホームページによる活動状況に関する情報提供を行った．理事会，分科会，シンポジウム，関連学協会の催事等の開催案内と報告等をタイムリーに掲載し更新した．

3）講演会及び研究会等の開催

a．第 25 回学術大会：2014 年 5 月 31 日（土）～ 6 月 1 日（日），東京都市大学・横浜キャンパス 3 号館において，一般研究発表（口頭発表 28 題，ポスター発表 13 題）を行った．ポスター発表のうち，2 つの発表がベストポスター賞を受賞した．また公開シンポジウム「中国の生態環境問題と水環境保全」をテーマとした 3 つの講演と，総合討論を行った．さらに，学会賞（2 名）の授与式ならびに受賞者講演会を行った．

b．2014 年度秋季シンポジウム：2014 年 11 月 15 日（土），東京農工大学小金井キャンパス 13 号館 4 階 404 号室において，「ウズベキスタンで行われた ICAL2 の学術発表について」をテーマに 5 つの講演によるシンポジウムを開催した．参加者 35 名．

4）分科会等の活動

a．沙漠工学分科会：（2013 年 3 月 31 日現在，登録者数：170 名）

会　長：田島　淳（東京農業大学）
幹　事：鈴木伸治（東京農業大学）

連絡先（事務局）：〒 156-8502　世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学　地域環境科学部　生産環境工学科
Tel：03-5477-2351，Fax：03-5477-2620
E-mail：s4suzuki@nodai.ac.jp

活動実績：第 29 回分科会の講演会を 2014 年 12 月 5 日（金），東京農業大学世田谷キャンパス横井講堂にて，東京農業大学沙漠に緑を育てる会 20 周年記念シンポジウムと共催で開催した．東京農業大学がジブチ共和国を中心に行ってきた沙漠緑化研究と緑化普及啓蒙活動についての成果発表を中心としたシンポジウムであった．開会に先立って，渡邉文雄氏（東京農業大学沙漠に緑を育てる会会長），髙野克己氏（東京農業大学学長），アホメド・アライタ・アリ氏（ジブチ国日本駐在大使）より挨拶があった．第一部では，Djibouti 共和国における沙漠緑化研究ならびに普及啓蒙活動の経緯について，高橋 悟氏，高橋久光氏，福永健司氏より報告がなされ，第二部では，沙漠緑化に関する学術研究として，豊田裕道氏（前沙漠学会長），田島 淳氏（現沙漠工学分科会長），島田沢彦氏，鈴木伸治氏，穂坂 賢氏，本間和宏氏，橘 隆一，真田篤史（何れも沙漠工学分科会員）より報告がなされた．シンポジウムのまとめは，西牧隆壯氏，安部征雄氏（両氏とも沙漠工学分科会員）であった．参加者 65 名．

b．乾燥地農学分科会：（2015 年 3 月 31 日現在，登録者数：200 名）

会　長：的場泰信（元農林水産省）

幹　事：石川祐一（秋田県立大学）

連絡先（事務局）：〒 010-0195　秋田市下新城中野字街道端西 241-438
秋田県立大学生物資源科学部生物環境科学科
Tel：018-872-1620，Fax：018-872-1677
E-mail：yu_ishikawa@akita-pu.ac.jp

活動実績：（1）2014 年 11 月 4 日に第 23 回講演会「沙漠化対処の新技術－温故知新－」を開催した．話題提供者と演題は麻布大学教授・押田敏雄氏「中国内蒙古自治区赤峰市翁牛特旗での沙漠化防止活動」，総合地球環境学研究所准教授・田中 樹氏「アフリカ半乾燥地での砂漠化への認識と実効ある対処技術の形成」，東京農業大学教授・島田沢彦氏「乾燥地域での衛星画像データを用いたモニタリング技術の活用と可能性」，東京都市大学教授・伊坪徳宏氏「ウォーターフットプリント－ライフサイクルの視点に基づく水に関連する環境影響評価－」である．35 名の参加者を得た．（2）分科会機関紙「CADAL ニュース」第 60 号を 2015 年 3 月 9 日に発行，195 部を分科会会員ならびに講演会参加者に配布した．（3）分科会の活動状況をさらに広く情宣するための情報発信として，分科会 Web ページを学会ホームページ下に移設した．（4）メーリングリストを開設・運用している．関連する講演会・シンポジウムの開催および参加者の 情報提供等に利用されている．（5）経団連自然保護基金に採択された（実施課題名「波浸水および地盤沈降地域の将来の利用を見据えた自然資源の調査と国内外の類似環境下における事例の調査」）．その調査結果を基に東北大学大学院農学研究科と共催で 2014 年 12 月 20 日に平成 26 年度東北復興支援シンポジウムを開催し，38 名の参加者を得た．また，2015 年 3 月 17 日に国連世界防災会議に参加したセネガル代表を迎えて現地視察を行った．

c．沙漠誌分科会：（2015 年 3 月 31 日現在，登録者数：139 名）

会　長：牛木久雄（元国際協力機構国際協力専門員）

幹　事：縄田浩志（秋田大学）

連絡先（事務局）：〒 010-0851　秋田市手形学園町 1-1　秋田大学国際資源学部
Tel：018-889-3256，E-mail：nawata@gipc.akita-u.ac.jp

活動実績：（1）2014 年 6 月 1 日（日），東京都市大学で開催された日本沙漠学会第 25 回学術大会において，平成 26 年度沙漠誌分科会総会を開催した．（2）2014 年 12 月 13 日（土），総合地球環境学研究所にて，沙漠誌分科会研究会／南アジアの生業研究会第 4 回研究会「世界の半乾燥地における家畜糞利用」を開催した．遠藤 仁（総合地球環境学研究所）「家畜糞の燃料としての利用について－インド北西部の事例」，小磯 学（神戸夙川学院大）「ヒンドゥー教における牛糞の儀礼的意味と利用」，小茄子川歩（東海大学）「インド・ハリヤーナー州における牛糞燃料の多角的利用方法について：ラキー・カース村とラキー・シャプール村の事例から」，上羽陽子（国立民族学博物館）「家畜糞の染色利用

について－インド西部カッチ県の事例から」，宮嵜英寿（総合地球環境学研究所）「土を肥やすために－インド北西部半乾燥地域の事例から－」，包 海岩（名古屋大学）「内モンゴルの家畜糞利用について」の 6 発表の後，田中 樹（総合地球環境学研究所），平田昌弘（帯広畜産大学）からコメントがなされた．（以上，敬称略）(3) 2015 年 1 月 31 日（土），総合地球環境学研究所にて，研究会「熱帯地域における酒と発酵食品」を開催した．久保亮介（京都大学）「サブサハラアフリカにおける酒造りの地域間比較研究－タンザニアおよびカメルーンの農村を事例として」, 砂野 唯（京都大学）「モロコシ酒を主食とする人々の生活と社会－エチオピア南部に暮らすデラシャとコンソの事例－」，山本雄大（河北印刷株式会社）「エチオピアの平焼き発酵パン“インジェラ”の発酵と利用」，古澤礼太（中部大学）「ガーナ共和国ガ民族の発酵食文化」，Muniandi Jegadeesan（タミルナードゥ農業大学）「Transformation of traditional fermented food in South India」の 5 発表の後，縄田浩志（秋田大学), 石井智美(酪農学園大学)からコメントがなされた．（以上, 敬称略) (4) 2015 年 2 月 21（土），シンポジウム「中東地域の水資源と環境－伝統と変容，過去から未来へ－」を開催（共催）した．岡村知明（国士舘大学イラク古代文化研究所共同研究員）「インドの歴史的居住環境と水利建造物－カティアワール地方・マングロール市の調査報告より」，竹村和朗（東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程）「エジプトにおける水資源開発と国家：トシュカ計画の事例から」，の 2 発表に対し深見奈緒子（早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員）からコメントがなされた．続いて，佐藤尚平（金沢大学人間社会研究域法学系准教授）「アブダビ調査報告」，吉村武典（早稲田大学イスラーム地域研究機構次席研究員）「エジプト調査報告」，縄田浩志（秋田大学国際資源学部教授）「地球の未来への要としての水－「貧而無怨難，富而無驕易」」の 3 発表に対して，牛木久雄（一般財団法人片倉もとこ記念沙漠文化財団代表理事）よりコメントがなされた．（以上，敬称略）

d．風送ダスト研究会：(2015 年 3 月 31 日現在，登録者数：約 40 名)

会　長：三上正男（気象庁気象研究所）

連絡先（事務局）：〒 305-0052　茨城県つくば市長峰 1-1　気象庁気象研究所

Tel：029-853-8613，Fax：029-855-7240

活動実績：2014 年 12 月 11 ～ 12 日に，九州大学応用力学研究所において，風送ダスト研究会を開催した．発表件数は, 19 件．参加者は約 30 名であった．発表内容は, 発表順に以下の通りである．岩本洋子(東理大・理)：海洋に沈着した陸起源ダストの性状，谷水雅治（海洋研究開発機構　高知コア研究所)：金属安定同位体比の人為起源エアロゾル指標としての可能性，河田 綾(東大・大気海洋研) 他 6 名：太平洋東部赤道海域から西部北太平洋における微小エアロゾルの雲凝結核特性と化学組成，福島 聡（熊本県大・環境共生）黄砂時地上付近エアロゾルの変動，村田浩太郎（熊本県大・環境共生)：粒径別黄砂サンプル中に存在する空気中細菌の量と生存状態：2013 年と 2014 年春期の天草西岸部における観測，杉本伸夫（国環研）黄砂と大気汚染エアロゾルの混合状態と光学モデルの検討，Pan, Uno I. et al.（九大・応力研)：Simultaneous transport of mineral dust aerosols with anthropogenic pollutants revealed by Polarization Optical Particle Counter (POPC) occurred in springtime, 2014, 原由香里（九大・応力研)：一週間継続した汚れた黄砂のモデル解析，長田和雄（名大・環境)：夏の黄砂は珍しい？，三浦和彦（東理大・理)：富士山系におけるエアロゾル計測，清水 厚（国環研)：国内におけるライダー黄砂消散係数と SPM・PM2.5 との関連，石塚正秀（香川大)：福島県浪江町における放射性物質の地表面からの再飛散に関する研究，三上正男（気象研究所)：モンゴルにおけるダスト飛散過程の観測，黒崎泰典（鳥大・乾地研)：モンゴル・ツォクトオボーにおける砂塵観測（その 2)，西川雅高（東理大・環保セ）他 3 名：十砂十色の黄砂発生源土壌，原 和崇（鳥大・乾地研）他 4 名：砂漠の植物表面に存在する氷核活性微生物の探索, 長島佳菜（JAMSTEC）他 2 名：堆積物を用いた，アジアダスト長距離輸送の季節性の検証，弓本桂也（気象研究所)：黄砂同化予測システムの開発にむけて，青木一真（富山大・理工）日本における黄砂の光学的特性の時間・空間変動．二日目の午後は，各発表を受けて総合討論を行った．（以上，敬称略）

5）国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

a．Desert Technology XII（DT XII）開催への協力.

b．日本地球惑星科学連合での活動.

c．地理学連携機構・地理関連学会連合への協力.

(2) 2014 年度決算報告

日本沙漠学会 2014 年度　決算（案）

（2014 年 4 月 1 日～ 2015 年 3 月 31 日）　　（単位：円）

	費　目	決 算 額	予 算 額	対予算額増減	摘　要
収入の部	前年度繰越金	8,619,155	8,619,155	－	
	会　費	2,340,000	2,884,000	-544,000	
	1）入　会　金	25,000	20,000	5,000	正会員 12 名，学生会員 13 名
	2）正　会　員　費	2,000,000	2,544,000	-544,000	214 名（+ 過年度及び前納 36 名）
	3）学　生　会　員　費	135,000	100,000	35,000	20 名（+ 過年度及び前納 7 名）
	4）購　読　会　員　費	30,000	70,000	-40,000	4 機関（1 機関 7500 円請求）
	5）賛　助　会　員　費	150,000	150,000	0	3 社
	助　成　金	0	0	0	
	その他収入	1,944,502	680,000	1,264,502	
	1）別　刷　代	337,000	640,000	-303,000	Vol.23(3), Vol.24(2), Vol.24(3)
	2）そ　の　他	1,607,502	40,000	1,567,502	ICAL2 特集号資金，利息
	（小　計）	4,284,502	3,564,000	720,502	
	合　計	12,903,657	12,183,155	720,502	
支出の部	加盟団体会費	10,000	10,000	0	日本地球惑星連合団体年会費
	学会誌発行費	2,302,774	2,350,000	-47,226	
	1）印　刷　費	1,719,565	1,800,000	-80,435	Vol.23(4), Vol.24(2), Vol.24(3)
	2）編　集　費	300,000	300,000	0	定額にて依頼
	3）発　送　費	283,209	250,000	33,209	発送手数料・郵送料（EMS 含む）
	活動準備金	226,023	505,000	-278,977	
	1）大　会　預　託　金	13,023	200,000	-186,977	5/31 ～ 6/1 東京都市大
	2）シンポジウム預託金	18,000	100,000	-82,000	秋季シンポジウム開催経費（東京農工大）
	3）分　科　会　交　付　金	195,000	205,000	-10,000	3 分科会
	表　彰　費	26,960	20,000	6,960	学会賞・功労賞表彰状作成
	片倉もとこ賞メダル作成費	976,32	1,000,000	-23,680	
	会　議　費	20,549	30,000	-9,451	評議員会・理事会経費
	事務運営費	240,350	450,000	-209,650	
	1）通　信・輸　送　費	54,000	100,000	-46,000	振替手数料，会費請求等郵送代
	2）印　刷　費	31,168	100,000	-68,832	総会・会議資料，会員名簿，封筒，請求書等印刷
	3）事　務　費	47,992	50,000	-2,008	消耗品費等
	4）人　件　費	86,400	100,000	-13,600	事務処理等手伝いバイト代
	5）交　通　費	0	50,000	-50,000	
	6）諸　雑　費	20,790	50,000	-29,210	Web サーバー管理費
	予　備　費	0	200,000	-200,000	経常費の 5％相当
	（小　計）	3,802,976	4,565,000	-762,024	（経常費合計）
	次年度繰越金	9,100,681	7,618,155	1,482,526	
	合　計	12,903,657	12,183,155	720,502	

(3) 貸借対照表および監査報告

貸 借 対 照 表

(2014 年 4 月 1 日～ 205 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科　目	金　額	科　目	金　額
郵便振替口座	7,482,100	借入金	0
三菱東京 UFJ 銀行	1,618,581	次期繰越金	9,100,681
現金	0		
合　計	9,100,681	合　計	9,100,681

会 計 監 査 報 告

日本沙漠学会 2014 年度会計報告に基づき，帳簿・帳票類を監査したところ，適正に運営されたことを確認いたしました.

2015 年 4 月 11 日

日本沙漠学会　監事　　中村　　徹

日本沙漠学会　監事　　高橋　新平

2．2015 年度事業計画及び予算（案）

(1) 2015 年度事業計画（案）

1）会務

a．会員　　2015 年 4 月 1 日現在，会員数は以下の通り.

名誉会員：5 名　　正 会 員：319 名

学生会員：20 名　　賛助会員：4 社

購読会員：7 機関

b．会議

(a) 日本沙漠学会 2015 年度総会：2015 年 5 月 23 日（土）秋田市カレッジプラザにて開催.

(b) 評議員会：2015 年 4 月 17 日（金）東京農業大学世田谷キャンパスにおいて既に開催（第 29 回）.

(c) 理事会：2015 年 4 月 17 日（金）東京農業大学世田谷キャンパスにおいて既に開催（第 119 回）. 他 4 回の開催.

(d) 総務委員会：適宜開催する.

(e) 財務委員会：適宜開催する.

(f) 編集委員会:2015 年 5 月 22 日(金)秋田拠点センター・アルヴェにて拡大編集委員会を開催. 他適宜開催する.

(g) 企画委員会：適宜開催する.

(h) 学会賞審査委員会：2015 年 5 月 23 日（土）第 26 回学術大会におけるベストポスター賞の審査を行う．また委員会を適宜開催する.

(i) 会則等改定委員会：適宜開催する.

(j) 事務業務効率化に関する検討委員会：適宜開催する.

2）刊行物

a．日本沙漠学会誌「沙漠研究」：Vol. 25 No. 1（2015 年 6 月），Vol. 25 No. 2（2015 年 9 月），Vol. 25 No. 3（2015

年 12 月），Vol. 25 No. 4（2016 年 3 月）

b．ニューズレター「おあしす」：No. 90（2015 年 6 月），No. 91（2015 年 9 月），No. 92（2015 年 12 月），No. 93（2016 年 3 月）

c．日本沙漠学会講演要旨集：第 26 集（第 26 回学術大会，2015 年 5 月 23 ～ 5 月 24 日）.

d．Web ニューズレターの適宜発行.

e．日本沙漠学会ホームページの適宜更新，入会案内の更新.

3）講演会の開催

a．第 26 回学術大会（25 周年記念大会）

・2015 年 5 月 23 日（土）～ 5 月 24 日（日）秋田市カレッジプラザにて開催（研究発表会・総会・学会賞授与・シンポジウム・など）.

b．秋季シンポジウム：

・「乾燥地および半乾燥地における農村開発技術協力の課題と展望」をテーマに 2015 年 10 月 24 日（土）に NTC コンサルタンツ会議室にて開催予定.

c．その他　適宜ミニシンポジウムを開催.

4）分科会講演会等の活動

a．沙漠工学分科会

・2015 年 12 月に第 30 回沙漠工学分科会講演会を開催.

・分科会会員と関連団体組織等との交流（共同研究など）.

b．乾燥地農学分科会

・2015 年 11 月に第 24 回乾燥地農学講演会を開催.

・分科会機関誌「CADAL ニュース」61 号を発行.

・ホームページの情報更新を行なう.

・メーリングリストにおける情報交換をさらに拡充.

・経団連自然保護基金による活動.

・その他，分科会会員の要望を集約し，新たな体制強化を図る.

c．沙漠誌分科会

・2015 年 5 月 24 日（日），秋田大学で開催される第 26 回日本沙漠学会学術大会会期中に，沙漠誌分科会 2015 年度総会を開催予定.

・2015 年 5 月 16 日（土）・17 日（日）に京都大学・稲盛財団記念館大会議室で開催される公開シンポジウム「家畜化と乳利用　その地域的特性をふまえて－搾乳の開始をめぐる谷仮説を手がかりにして－」を後援予定.

・国際土壌年 2015 に関連して，土壌と生業に関する研究会もしくはシンポジウムを企画予定.

・2016 年 1 月～ 2 月をめどに研究会「ポストソ連時代の中央アジア半乾燥域における経済ネットワークの再構築と農業の現代的変容（仮）」を開催予定.

・2014 年度に開催された研究会「世界の半乾燥地における家畜糞利用」,「熱帯地域における酒と発酵食品」について，それぞれ 2015 年度中の沙漠研究小特集掲載に向けて査読を実施中．また，2015 年度開催予定の研究会についても，小特集を組む予定.

・その他，ホームページ，ニューズレター，メーリングリストなどを用いて，情報発信を継続する.

d．風送ダスト研究会

・これまでと同様に，風送ダスト研究会を開催する（1 回程度）.

5）国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

a．Desert Technology XII（DT XII，エジプト）開催への協力.

b．The 3rd International Conference on Arid Land（ICAL3，トルコ）開催への協力.

c．日本地球惑星科学連合活動への協力.

d．地理学連携機構・地理関連学会連合活動への協力.

e．日本セラミックス協会第 28 回秋季シンポジウム特定セッションの協賛.

f．その他　国内外の講演会等への協力・関係機関との交流及び協力.

6）その他本会の目的達成のための事業

・必要な事業を随時開催.

(2) 2015 年度予算（案）

日本沙漠学会 2015 年度　予算（案）

（2015 年 4 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日）　　（単位：円）

	費　目	予　算　額	前年度決算額	対前年度額増減	摘　　要
収入の部	前年度繰越金	9,100,681	9,100,681	－	
	会　　費	2,942,000	2,340,000	602,000	
	1）入　会　金	20,000	25,000	-5,000	
	2）正　会　員　費	2,552,000	2,000,000	552,000	正会員数（2015.4.1 現在）319 名
	3）学　生　会　員　費	100,000	135,000	-35,000	学生会員数（2015.4.1 現在）20 名
	4）購　読　会　員　費	70,000	30,000	40,000	7 機関
	5）賛　助　会　員　費	200,000	150,000	50,000	4 社
	助　成　金	0	0	0	
	その他収入	680,000	1,944,502	-1,264,502	
	1）出　版　費	640,000	337,000	303,000	
	2）そ　の　他	40,000	1,607,502	-1,567,502	利息等
	（小　計）	3,622,000	4,284,502	-662,502	
	合　　計	12,722,681	12,903,657	-180,976	
支出の部	加盟団体会費	10,000	10,000	0	日本地球惑星連合団体年会費
	学会誌発行費	2,350,000	2,302,774	47,226	
	1）印　刷　費	1,800,000	1,719,565	80,435	「沙漠研究」年間 4 号発行
	2）編　集　費	300,000	300,000	0	定額にて依頼
	3）発　送　費	250,000	283,209	-33,209	発送手数料・郵送料（EMS 含む）
	活動準備金	505,000	226,023	278,977	
	1）大会預託金	200,000	13,023	186,977	学術大会開催経費
	2）シンポジウム預託金	100,000	18,000	82,000	シンポジウム開催経費
	3）分科会交付金	205,000	195,000	10,000	
	表　彰　費	20,000	26,960	-6,960	学会賞表彰状作成
	会　議　費	30,000	20,549	9,451	評議員会・理事会経費
	事務運営費	450,000	240,350	209,650	
	1）通信・輸送費	100,000	54,000	46,000	振替手数料，会費請求等郵送代
	2）印　刷　費	100,000	31,168	68,832	会議資料，請求書等印刷
	3）事　務　費	50,000	47,992	2,008	消耗品費等
	4）人　件　費	100,000	86,400	13,600	事務処理等手伝いバイト代
	5）交　通　費	50,000	0	50,000	
	6）諸　雑　費	50,000	20,790	29,210	
	予　備　費	200,000	0	200,000	経常費の 5％相当
	（小　計）	3,565,000	3,802,976	-237,976	（経常費合計）
	次年度繰越金	8,957,681	9,100,681	-143,000	
	合　　計	12,722,681	12,903,657	-180,976	

3．学会賞審査報告

平成 26 年度　日本沙漠学会　奨励賞
氏　名：大場　章弘　会員
テーマ：景観生態区分による村落レベルの牧草生産力の評価

4．その他

日本沙漠学会・第 26 回学術大会 - 25 周年記念大会 - 報告（大会運営委員会報告）

日本沙漠学会第 26 回学術大会(25 周年記念大会)が秋田市カレッジプラザにおいて 2015 年 5 月 23 日(土)～ 24 日(日)に開催されました.

第 26 回学術大会

期日：2015 年 5 月 23 日（土）～ 24 日（日）
場所：秋田市カレッジプラザ

プログラム

5 月 23 日（土）	5 月 24 日（日）
研究発表会・セッション 1	研究発表会・セッション 3
研究発表会・セッション 2	学会賞受賞者記念講演
ポスター発表コアタイム	研究発表会・セッション 4
総会	研究発表会・セッション 5
公開シンポジウム	エクスカーション
懇親会	

学術大会の概要

本大会（25 周年記念大会）では，発表内容及び研究対象地域などを勘案して 5 つのセッションを設けて研究発表会を行い，口頭発表 22 件，ポスター発表 12 件がありました．研究対象地は，多い順に，中国 5 件，日本 4 件，カザフスタン 4 件，モンゴル 3 件，インド 2 件，オーストラリア 2 件，ミャンマー 1 件，アラブ首長国連邦 1 件，アフガニスタン 1 件，ヨルダン 1 件，スーダン 1 件，チャド 1 件，カメルーン 1 件，セネガル 1 件，コンゴ 1 件，ケニア 1 件，アフリカ・アジア全域 1 件，その他場所を特定しないもの 3 件でした．またインドとアフガニスタンの筆頭発表者による英語での口頭発表がありました．本大会は秋田大学国際資源学部と秋田県立大学生物資源学部の共催，また片倉もとこ記念沙漠文化財団の後援により開催されました.

総会終了後には，25 周年記念大会を記念して，参加者全員での記念撮影を行いました．なお，次回（第 27 回，2016 年度）学術大会開催地は，鳥取となりました.

学会賞

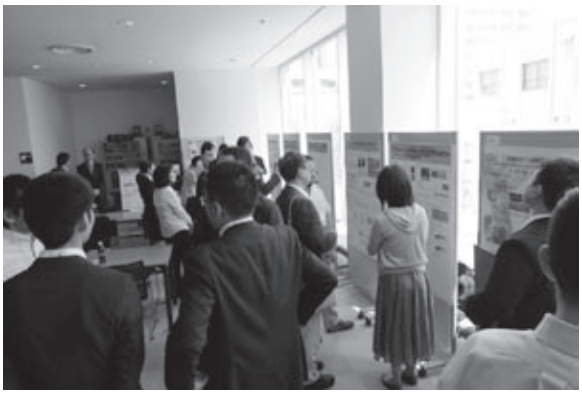
2014 年度日本沙漠学会賞（奨励賞）には，大場章弘氏が受賞されました．業績「景観生態区分による村落レベルの牧草生産力の評価」が評価されたものです.

ベストポスター賞

ベストポスター賞は，松井佳世氏ほか「カザフスタン共和国アラル海地域におけるサクサウール植林圃場の土壌特性と生育の関係」が受賞されました.

公開講演会

公開シンポジウム「意外につながっている！ 秋田と沙漠」を開催しました．学術大会実行委員会では，秋田で大会を開催するにあたり，せっかくなので沙漠学会と秋田との接点を探してみました．一見すると全く関連のない両者ですが，例えば秋田大学・秋田県立大学と乾燥地・半乾燥地を持つ海外諸国との学術連携，秋田県と甘粛省の姉妹都市関係から寄贈された乾燥地になじみの深いラクダなど多彩な関連があることが分かりました．そこで，沙漠と秋田県との“意外なつながり”を一般市民も含め広く紹介し，雪国秋田の意外な一面を皆さんと共有したいと考えて本シンポジウムを企画いたしました．



ポスター発表

日高伸氏（秋田県立大学生物資源科学部教授）は「中国山西省アルカリ土壌改良の紹介と中国の不良土壌修復に係る今日的課題」と題して，中国山西省の大同盆地で長年実施しているアルカリ土壌改良について，また中国内蒙古シリンゴル盟草原土壌の現状と土壌修復に係る共同研究を紹介されました．

公開講演会

小松守氏（大森山動物園園長）は「沙漠の動物－ラクダの話あれこれ」と題して，フタコブラクダを中心に生態や進化などの切り口で紹介しながら，動物学的な視点での沙漠へのアプローチを試みられました．秋田市の大森山動物園のラクダは中国甘粛省蘭州市から贈られたフタコブラクダであり，またその子孫が日本中の動物園で飼育されていることなども解説いただきました．

渡部光哉氏（青年海外協力隊シリア OB，写真家）は「沙漠にはすべてがあるーベドウィン」と題して，たくさんの魅力的な写真を紹介しながら，シリアの人々にとってのアラブと遊牧民ベドウィンたちの生活の中から，沙漠というフィールドの多様性，魅力を切り取っていただきました．現地で初めてヒツジの脳味噌の料理を食べた時に，秋田名物ハタハタの白子の味を思い出したという話は，特に印象深いものでした．

市嶋典子氏（秋田大学国際交流センター准教授）は「平和構築と日本語教育－シリア人日本語教師の語りをてがかりに」と題して，シリアのダマスカスで日本語教育に携わってきた自身の経験をもとに，当地の人々がどのように日本語教育に関わり，日本語の学びをアイデンティティの一部として認識していったのか，そのプロセスの詳細を示すことを通して，平和構築としての日本語教育の意義を提起されました．

縄田浩志（秋田大学国際資源学部教授）は「展示活動を通じた交流－国立科学博物館における企画展「砂漠を生き抜く」を通じて」と題して，国立科学博物館・総合地球環境学研究所の共催で開催された企画展「砂漠を生き抜く－人間・動物・植物の知恵」において行った展示内容，講演会，実験講座，ギャラリートーク，民族衣装試着会などを紹介して，日本において直に一般市民とコミュニケーションすることの意義と課題について考えました．

「秋田竿燈まつり」竿燈演技

竿燈体験

まとめの議論においては，本公開シンポジウムまた本学会の活動の特徴について「沙漠の人々を“幸せ”に導くためにはどうするか，様々な角度からの検討は本当に

意義深い」という誠に印象深いコメントを，講演者の小松氏よりいただきました．またその時の様子については，コラム「沙漠学会とラクダ」（『あきた経済』433 号, 2015 年 6 月）として，報告されています．

学会員と一般の参加者が 100 名を超えたことに加え，沙漠と秋田の“意外なつながり”に関連した味わい深い個性的な発表に基づき，大変ユニークな議論に発展させることができたと感じました．

秋田大学国際資源学部附属鉱業博物館の見学

エクスカーション

秋田大学手形キャンパスにおいて，東北三大祭りの一つである「秋田竿燈まつり」で知られる竿燈演技披露を秋田大学竿燈会／秋田県立大学竿燈会によって行っていただきました．その後，秋田大学国際資源学部附属鉱業博物館では鉱山開発の現場を仮想体験できるバーチャル鉱山システム，また 3,300 点の鉱物・鉱石・岩石・化石・鉱山模型の標本資料の紹介・案内がされました．

「半世紀前 片倉もとこの見たオアシス
ワーディ・ファーティマ」写真展示

関連イベント

沙漠誌分科会と片倉もとこ記念沙漠文化財団により，「半世紀前 片倉もとこの見たオアシス ワーディ・ファーティマ」と題した写真展示が，同会場にて行われました．貴重な写真パネルを中心としてインタビュー映像や著作も紹介され，多くの学会員と一般の皆様が足をとめて，展示を楽しんでいただきました．

【第 26 回日本沙漠学会学術大会実行委員会委員長　縄田浩志】

12th International Conference of Desert Technology (DT XII) のお知らせ（第二報）

Conference language: English

Closing date:
Abstract Submission:
Deadline: August 15, 2015
Manuscript Submission
September 15 – October 15, 2015

* Title, author name(s) in full spelling with affiliation(s), 300-400 words abstract in English & contact person's name & email address *

A poster session will be a part of the conference. After critical peer reviewing, presented paper will be published in either

1- **Journal of Arid Land Studies, Japan (special issue)**

2- **Journal of Advanced Research, JAR, Elsevier, Cairo University (special issue).**

All Correspondence should be addressed to:

Prof. . Dr. Ahmed Aboul-Enein
Mobile: +2 0100 61 51 121(Egypt)
Fax: +202 35 71 73 55
E-mail: Ahmed_DT12@agr.cu.edu.eg

Post-Conference Optional Tours:
After the end of the Conference, attractive tours for participants who are interested to visit historical and cultural sites in Egypt will be available. Full details and timetable will be announced later.

For more information please visit

http://www.desert-technology-12.agr.cu.edu.eg/dt12/

Desert Technology 12th International Conference

(DT 12)

(16-19 November, 2015)

Last Name:----------
First Name (s)----------

Title (Ms. Mrs. Dr. Prof.)----------
Position----------
Organization /Institution:----------

Age;----------**gender**:----------
Place & Date of Birth:----------
Country ---------- **City**----------
Current Nationality ----------
Passport No. :----------
Place & Date of Issue: ----------
Date of Expiry----------
Address to correspondence: ----------

Phone No.:----------
E-mail:----------
Accompanying person (s):----------

---
registration payment Details:
Draft No:----------**Dated**:----------
Bank:----------
---

presentation:
☐ **Oral** ☐ **Poster**

Post Conference touristic tour:
☐ **Yes** ☐ **No**
Number of Persons ☐

2015 年　日本沙漠学会　秋季シンポジウムのお知らせ

日本沙漠学会では下記の通り，2015 年度の秋季シンポジウムを企画しております．皆様是非ご参加ください．

日　時：2015 年 10 月 24 日（土）
場　所：ハーモニータワー 20 階 NTC コンサルタンツ㈱ 会議室（会場案内図参照）
テーマ：「乾燥地および半乾燥地における農村開発技術協力の課題と展望」

プログラム

13:00 〜	受付開始
13:30 〜 13:40	開会の挨拶（小島　紀徳　沙漠学会会長）
13:40 〜 14:10	北中　真人（JICA 農村開発部部長） サブサハラアフリカ半乾燥地における農業・農村開発協力の課題と展望
14:15 〜 14:45	奥田　幸夫（JIRCAS 農村開発領域主任研究員） ウズベキスタンにおける排水システム改善の取り組みについて
14:50 〜 15:20	大沼　洋康（国際耕種㈱ 代表取締役） 中東地域における農村開発技術協力の現場から
15:25 〜 15:45	休憩
15:45 〜 16:15	滝川　永一（NTC インターナショナル㈱ 企画本部特命事業推進部部長） コートジボワール国の灌漑施設整備における住民組織化の課題
16:20 〜 16:50	総合討論（モデレーター：西牧　隆壯　JAICAF 会長）
16:50 〜 17:00	閉会の挨拶（渡邉　文雄　沙漠学会副会長）
17:30 〜 19:30	懇親会

出席申し込み先／日本沙漠学会秋季シンポジウム実行委員会
E-mail：jaals2015autumn@gmail.com

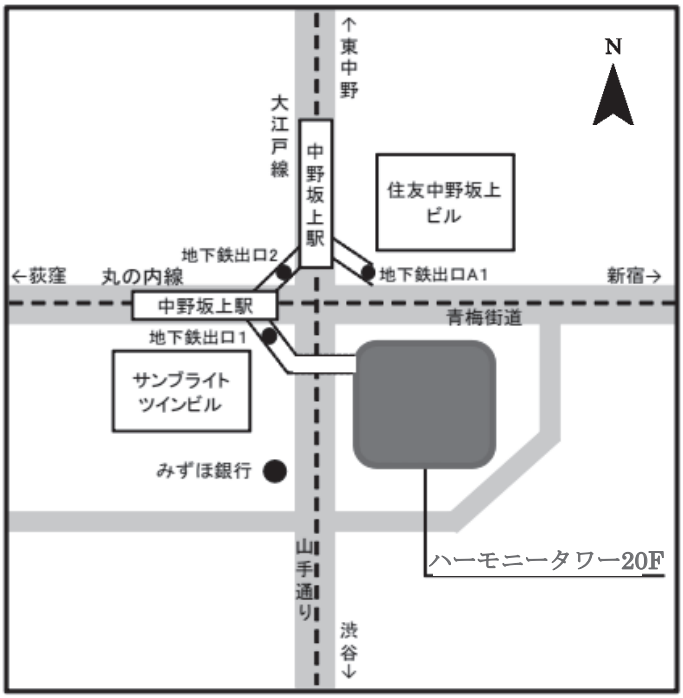
［出席申込方法］

会場準備の都合で恐縮ですが，**10 月 16 日（金曜日）まで**に下記 1. 〜 5. について記入の上，E-mail で秋季シンポジウム実行委員会までお申し込み下さい．10 月 16 日以降のお申し込みも受け付けておりますが，円滑な運営のため，事前申し込みにご協力いただけますと幸いです．

1. 御氏名
2. 御所属先
3. 秋季大会の御出欠
4. 懇親会の御出欠
5. 備考（ご不明な点，ご要望等ございましたら自由にご記入ください）

お問い合わせ先／日本沙漠学会事務局
E-mail：s4suzuki@nodai.ac.jp

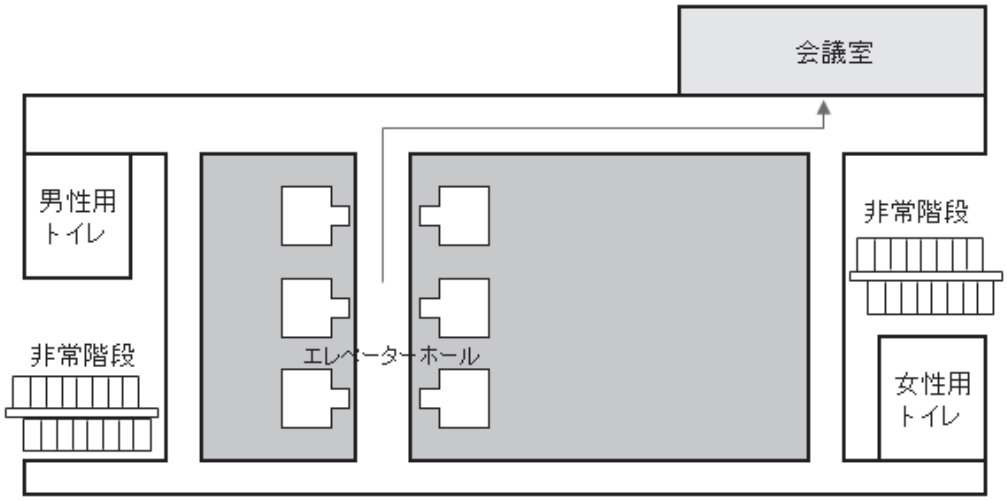
会場案内図



ハーモニータワー案内図

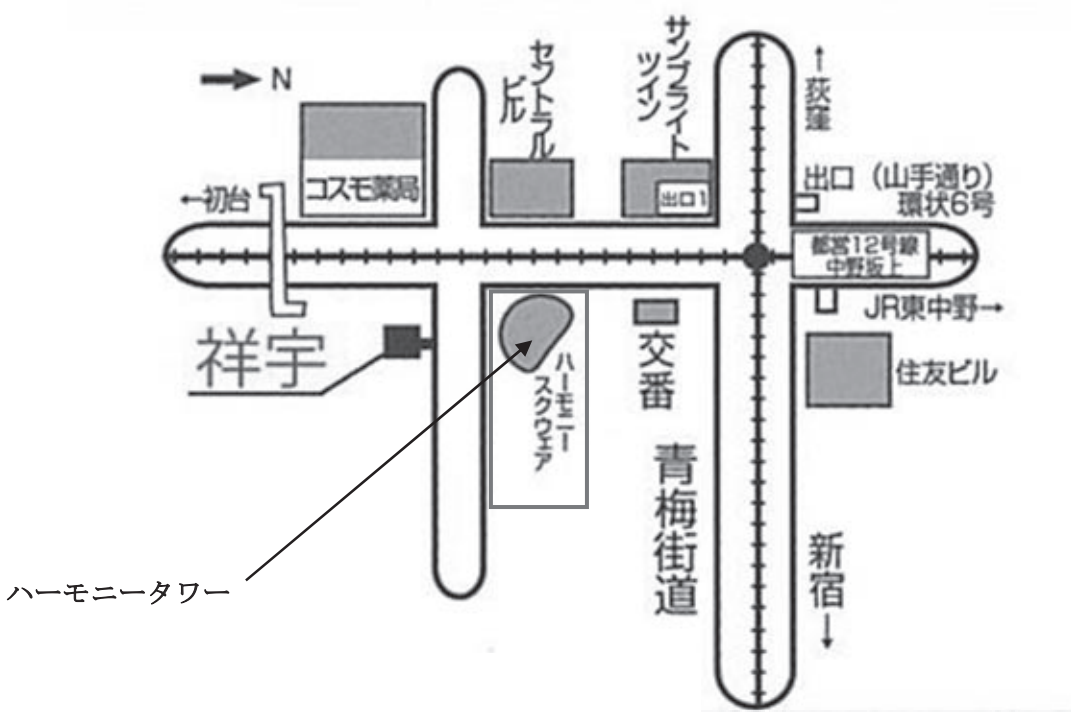
【住所】 東京都中野区本町 1-32-2　ハーモニータワー 20F

地下鉄：東京メトロ丸ノ内線　中野坂上駅下車　中野坂上交差点方面改札～ 1 番出入口，交番のある一画



※ 20 階には高層階用エレベーターをご利用下さい．低層階用は 16 階までしか止まりません．

秋季大会会場案内図（20 階 NTC コンサルタンツ㈱ 会議室）



懇親会会場案内図

中華料理　祥宇（しょうう）　ハーモニータワーから徒歩 1 分

〒 164-0012 東京都中野区本町 1-25-15　Tel:(03) 3377-8788

東京農工大学科学博物館企画展のお知らせ

日本セラミックス協会第 28 回秋季シンポジウム特定セッションのお知らせ

セラミックス科学・技術からアプローチする環境ソリューションの新展開

環境汚染・有害物質対策，資源・エネルギー問題をはじめとする課題に対応する解決技術（環境ソリューション）において，優れた機能を実装できるセラミックス材料が果たすべき役割は大きいところがあります．本セッションでは，環境に関するセラミックスの素材，製造技術から，利用技術・国際的な社会実装まで川上から川下までの幅広い分野から研究発表を募り，環境保全，水浄化，有害物質対策，土壌浄化，廃棄物利用などの種々の環境問題への取り組みについて議論の場を提供します．

日　時　2015 年 9 月 16 日（水）～ 9 月 18 日（金）
場　所　富山大学 （五福キャンパス）
主　催　日本セラミックス協会
協　賛　日本沙漠学会　他

詳細は，学会 HP および http://www.ceramic.or.jp/ig-syuki/28th/index.html をご参照ください．

つくばグローバルサイエンスウィーク企画セッション「乾燥地における生存戦略　－水資源管理と農業経営」のお知らせ

アフリカ大陸北部に位置するサハラ砂漠の周縁では，限られた水資源に基づいて農業が営まれてきました．全球的な気候変動により今後はさらに乾燥化が進行していくことも予測されています．そうした中，限られた水資源を利用して地域が持続的に発展していくためには，先端技術と地域に根付いた技術を融合しながら，そこで営まれる農業活動を環境に適したように最適化していかなければならなりません．本セッションではチュニジアとモーリタニアで活動する研究者を招へいし，現地の水資源と農業の実態とこれからのあり方について議論します．

日　時　2015 年 9 月 28 日（水）14:15 ～ 17:15
場　所　エポカルつくば（つくば国際会議場）401
主　催　筑波大学
協　賛　日本沙漠学会

詳細は，http://www.kokuren.tsukuba.ac.jp/TGSW2015/index.html をご参照ください．

学 会 記 事

日本沙漠学会第 119 回理事会　議事録

日　時：2015 年 4 月 17 日（金）13:00 ～ 14:50

場　所：東京農業大学世田谷キャンパス　生産環境工学科バイオロボティクス研究室木工室

出　席：小島紀徳（会長），渡邉文雄（副会長），川端良子，酒井裕司，白石雅美，鈴木伸治，田島　淳，豊田裕道，森尾貴広，矢沢勇樹（以上，理事），高橋新平，中村　徹（以上，監事），安部征雄（顧問），上原有恒，佐藤周一，縄田浩志，藤巻晴行，的場泰信（以上，オブザーバー）

委任状：吉川　賢（副会長）田中　徹，吉崎真司（以上，理事）

Ⅰ．報告事項確認

1．議事録の確認（おあしす 24（4）原稿）

2．学会賞審査委員会報告

・編集委員会から 3 編の推薦があった．審議の結果，以下の 1 編を受賞候補とした．奨励賞：大場章弘氏「景観生態区分による村落レベルの牧草生産力の評価」.

3．秋田県立大学への助成申請について

・秋田県立大学　請求書内容の確認（先方に送って内容を確認する）

・大会プログラムについて

・シンポジウムについて

・エクスカーションについて

竿燈演技披露，秋田大学鉱業博物館見学を予定.

4．Desert Technology XII（DT XII，エジプト）について

・IS の関係で，所属機関によっては渡航が規制されているが行ける方は是非行って欲しい.

・エジプトでの会議内容について，学会誌（本誌記事あるいはおあしす記事）で報告して頂くとありがたい.

・DT の International Committee では，インドでの DT XIII の開催（2018 年），中国での DT XIV の開催を検討している.

5．The 3rd International Conference on Arid Land（ICAL3，トルコ）について

・経過報告：成田での ICAL1 に次ぐ，ウズベキスタンでの ICAL2 にて，トルコでの開催を検討することとなっていたが，3 年後（2017 年 9 月）に Antalya で開催する予定との通知があった.

6．編集委員会報告

・学術大会の前日（5/22）に拡大編集委員会を行う.

・J-Stage 化に伴う必要な改変

原著論文数の確保, 25 周年の特集連載記事, 沙漠誌, 沙漠工学，乾燥地農学

・歴代会長からの展望(論文)を出して頂いてはどうか.

・25(1)は東京農大沙漠に緑を育てる会 20 周年記念シンポから転載（資料）

・別刷りの紙媒体の廃止（PDF コスト，論文 1 報当たり 1,000 円）.

・菅沼会員不在時の編集業務は，佐藤会員にお願いする.

7．財務委員会報告

・現在の明確な会員数 250 人である.

Ⅱ．審議事項

1．総会資料の内容確認

・会員数について

・拡大編集委員会，2014 年 5 月 30 日，都市大において開催.

・編集委員会，メールによる定例報告 2014 年 11 月，2015 年 1 月.

・風に関するシンポジウム開催年確認．← 2013 は誤り.

・決算：未納者が多い（100 名近くの会員が未納），国際会議をまとめた論文掲載・支出があり，通常の収支がわかり難い．ICAL 2 からの印刷費預かり分 160 万円が収入になっていることに注意.

・現在は，再請求・督促はしていない.

・紙媒体の冊子をやめるか.

・監査報告.

2．秋季シンポジウム

・10/24 土曜日の午後，NTC コンサルタンツ会議室で開催.

・沙漠誌分科会のメンバーより，国際土壌年に関連するシンポジウム開催の提案がなされている.

3．2017 の学会企画開催候補地

・学術大会：千葉工大.

・秋季シンポジウム：名古屋学院大学（2016 年），筑波大学（2017 年）.

4．その他

・礒田評議員からの退会届が提出された件

やむなし．次点の篠田会員に依頼しお引き受け頂いた.

・次回，5 月 22 日（金）18:30 ～秋田で開催.

日本沙漠学会 28 回評議員会　議事録

日　時：2015 年 4 月 17 日（金）15:00 ～ 17:10

場　所：東京農業大学世田谷キャンパス　生産環境工学科バイオロボティクス研究室木工室

出　席：小島紀徳（会長），渡邉文雄（副会長），川端良子，酒井裕司，白石雅美，鈴木伸治，田島　淳，豊田裕道，森尾貴広，矢沢勇樹（以上，理事），高橋新平，中村　徹（以上，監事），安部征雄（顧問），上原有恒，牛木久雄，鈴木　潤，縄田浩志，西牧隆壯，的場泰信，渡邊三津子（以上，評議員）佐藤周一，藤巻晴行（以上，オブザーバー）

委任状：吉川　賢（副会長）田中　徹，吉崎真司（以上，理事）

Ⅰ．理事会報告

1．総会資料に基づく説明（修正箇所）

・購読会員　7 機関

・編集員会　2014 年 5 月 30 日（金）成蹊大学

・定例報告　2014 年 11 月，2015 年 1 月

・講演会等　風送ダスト研究会主催行事は開催されていない．削除する．

・決算報告および監査報告　中村監事．

・予算案の支出項目の変更　別刷り代→出版費

2．学会賞報告

・奨励賞　大場章弘氏「景観生態区分による村落レベルの牧草生産力の評価」

3．役員リスト

・安部征雄会員は，名誉会員となったため，評議員から外れた．理事会オブザーバーという役職を設け，安部会員を理事会顧問とし，3 分科会長と共に入れる．

・礒田博子会員は，3 月付けで退会．評議員の欠員は，次点の篠田裕氏を追加当選とし，可否を確認して承諾された．

4．その他

・沙漠研究 25(1) より J-Stage でオンライン化
別刷りの廃止，今後冊子体についても存続について議論する方向．投稿者の経費負担，会員メリット，審査，印刷について森尾編集委員長より説明があった．

・拡大編集委員会への参加依頼
5 月 22 日（金）18:30 ～　秋田駅東口アルベ拠点センター 4 階

・各分科会長から今年度の計画を伺った．

・2015 年秋季シンポジウム 10 月 17 日で NTC に打診する．

・5 月 23 日，7 月 17 日，10 月 16 日理事会

・2016 年学術大会 鳥取大学

・2016 年秋季シンポジウム 筑波大学

・2017 年学術大会 千葉工大

・2017 年秋季シンポジウム 成蹊大学

・2015 年 11 月　Desert Technology XII（DT XII）エジプト，カイロ

・The 3rd International Conference on Arid Land（ICAL3）トルコ

Ⅱ．その他

・縄田先生の著書が紹介され，書評をおあしすに掲載することとした．

日本沙漠学会第 120 回理事会　議事録

日　時：2015 年 5 月 23 日（土）11:40 ～ 12:10

場　所：秋田市カレッジプラザ 2F

出　席：小島紀徳（会長），渡邉文雄，吉川　賢（以上，副会長），川端良子，酒井裕司，白石雅美，鈴木伸治，田島　淳，豊田裕道，森尾貴広，矢沢勇樹（以上，理事），高橋新平，中村　徹（以上，監事），安部征雄（顧問），島田沢彦（総務委員），石川祐一，牛木久雄，縄田浩志，藤巻晴行，的場泰信（以上，オブザーバー）

委任状：田中　徹，吉崎真司（以上，理事）

Ⅰ．審議事項

1．総会資料の確認

・前回理事会以降の修正箇所について鈴木理事から説明がなされ，以下の確認がなされた．

・風工学分科会の報告内容が古いものだったので削除した．

・役員の所属などについて，新たに，乾燥地農学分科会長の石川理事への交代，酒井理事の所属に修正が必要であり，総会において，口頭で訂正することとした．

2．今後の大会・シンポジウムの開催場所について

・田島理事から今後の大会・シンポジウムの開催場所について確認がなされた．

・2016 年度秋シンポジウムを名古屋学院大で行いたいとの申し入れがあったことについて小島会長から報告され，予定されていた 2017 年度の筑波大での開催は次年度へ繰り越すことが諮られ了承された．その結果，以下が開催場所の予定となった．

○ 2015 年秋季シンポジウム：NTC インターナショナル（会場：NTC コンサルタンツ）

○ 2016 年学術大会：鳥取大学

○ 2016 年秋季シンポジウム：名古屋学院大

○ 2017 年学術大会：千葉工大

○ 2017 年秋季シンポジウム：筑波大学

3．その他

・次回理事会は，7 月 17 日（金）14:30 ～　東京農大で開催することとした．

Ⅱ．報告事項

1．総務委員会報告（会員動向）

・昨年度中の入会，退会とも 5 ～ 6 名であったことが総務担当からから報告された（正確な実数は 5/23

の時点で，2014 年度の新規入会は，学生会員 8 名，正会員 10 名，賛助会員 1 団体であり，退会は 13 名であった）．

2．編集委員会報告（拡大編集委員会，5/22）

・投稿規定の改正について森尾編集委員長から報告が成された．

・J-STAGE への掲載に伴う規定改正について議論した．今後，理事会に改正内容を提案する予定である．

3．その他

・財務体制について矢沢から報告がなされた．
学会の財務関連の業務は，総務に関わるものと，編集に関わるものとに分けられる．田中理事には，主に編集に関わる財務業務を担当していただくことを考えている．

・ベストポスター賞について
白石理事，豊田理事で選考を進めている．対象者は 5 名で，審査員 9 名を既に抽出済みである．懇親会で表彰する予定であり，受賞者には参加費をお支払いいただき参加いただくことを確認したが，最終的には，実行委員会の判断とする．ポスター賞受賞者には受賞のコメントをもらっておあしすに掲載することが提案され，了承された（総務担当で話し合った結果，次年度以降，おあしすにて大きくアピールし，受賞者からのコメントを掲載することとした）．受賞対象は 35 歳以下との文言があるが，36 歳の留学生については学生ということで対象者とすることとした．

・総会について
議長は尾崎益雄会員に依頼済みであること，委任状のみで会員 3 分の 1 以上が集まっており総会は成立することが確認された．

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 会 員 動 向 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

●新入会員

正会員（2014 年度入会）

村上　文明（ID: 1064，日本工営）
寄立　　徹（ID: 1065，㈱オリエンタルコンサルタンツグローバル）
稲井　啓之（ID: 1066，京都華頂大学）
地田　徹朗（ID: 1067，北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）
杉原　　創（ID: 1072，首都東京大学都市環境学部自然・文化ツーリズムコース）
今村　　薫（ID: 1075，名古屋学院大学現代社会学部）

正会員（2015 年度入会）

杜　　春玲（ID: 1076，名古屋大学）

学生会員（2014 年度入会）

三谷　一太（ID: 1068，成蹊大学理工学部）
ヤダムジャブ　プレプドルジ（ID: 1069，酪農学園大学大学院）
矢吹　幸子（ID: 1070，秋田県立大学大学院）
丸山　優樹（ID: 1071，筑波大学生命環境化学研究科）
東　　晃司（ID: 1073，千葉工業大学大学院）
松井　佳世（ID: 1074，京都大学大学院）

●退会会員

正会員

礒田　博子，川床　睦夫，楠美　順理，篠田日出海，高橋　久光，田中　　剛，中嶋　光敏，新田　直人，浜部　　薫，保久丈太郎，水野　珠恵，山中　浩明，王　　秀峰

賛助会員・団体会員名簿

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel：042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel：03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	164-8721	東京都中野区本町 1-32-2	Tel：03-5354-3621
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel：0424-95-1060

コラム

ケニア乾燥地の現場から（その４）

佐藤周一・村上文明（日本工営株式会社）

世界遺産のトゥルカナ湖

トゥルカナ湖は，ケニア北部に位置する世界最大の塩湖で，別名 Jade Lake（翡翠湖）とも呼ばれる．まさに翡翠色の湖水が，沙漠生態系域の典型である草木が殆ど生えていない湖岸に縁取られ，南北に長く横たわっている．地平線まで続く湖水と沙漠の対比は実に印象的である．ここは年雨量が 150 mm 程度の極乾燥地．トゥルカナ湖には流入河川はあるが，流出河川は存在しない「出口の無い湖」で，そのため，湖水の塩分濃度が非常に高い．この湖には大型の淡水魚ナイルパーチが生息し，捕獲されたものは，ケニア国内のみならず欧米や日本へも輸出されるため，湖周辺で漁業が成立している．湖岸にはKalkol（カルコル）というトゥルカナ湖西側では最も栄えた漁村および湖畔リゾートの町がある．湖周辺には，シビロイ国立公園，セントラル･アイランド国立公園，サウス･アイランド国立公園の３つの国立公園があり，これを総じて「トゥルカナ湖国立公園群」と呼び，世界遺産に登録されている．

トゥルカナ湖の漁民

トゥルカナ地方に住む人々は，基本的には牧畜を中心とした「沙漠の民」だが，トゥルカナ湖周辺に住む人々は漁業も営む半牧半漁の民である．現地調査の一環でトゥルカナ湖北東部の Ileret（イレレット）という魚村を訪ねたときのことである．朝８時頃，湖畔へ行くと，漁から戻ってくる漁民に出くわした．彼らは何やら重そうなモノをボートから引きずり出して引っ張って来る．何かと見てみると・・・それは，トゥルカナ湖で捕れたばかりのナイルパーチで，想像をはるかに超える巨大サイズだった．

写真 1．捕れたてナイルパーチの運搬

写真 2．ナイルパーチの積み込み

捕獲されたナイルパーチは，直ぐに重さを測り，浜で待機しているクーラー車（日本の中古トラック）にどんどん搭載されていく．最大のものは 55 キロ程．女性一人分の重さである．食べごたえもあるだろう．このクーラー車は２日かけてナイロビへ直行し，積荷の一部はそのままスーパーの店頭に並べられる．さらに，海外のマクドナルド店のフィレオフィッシュやホカベンの白身フライに使われているという噂もある．

トゥルカナ湖はアルカリ湖なので淡水魚でも寄生虫がいないという話を信じ，筆者らは刺身にして生で食べてみた．身はぷりぷりと弾力があり，甘みのある白身である．醤油がないので塩を振って食べたが，かなり美味だった．

トゥルカナ湖の湖畔に住む半牧半漁の民は生計の中心を天候に左右されない漁業に頼っているため，干ばつで時々壊滅的な被害を受ける一般的「沙漠の民」に比べて生活は比較的安定しているようだ．しかし，聞き取り調査によれば，彼らの強い願望は，できれば漁業でなく，家畜を沢山飼い，牧畜を中心として生計を立てたいということであった．生活のため魚を取っているが，彼らの本心は「沙漠の民」なのだ．彼らにとって牧畜とは，単なる生活の手段というレベルを超えた，大きな心の中の存在らしい．

砂漠の中のケニア水サミット

2014 年 10 月に２日間，自然豊かな！トゥルカナ湖の湖岸で，ケニア国の水サミットが開催された．この水サミットは，ケニア国の水関係者が一同に会し，水に関する現状と課題を共有し，新しい取り組み等についての紹介，意見交換などを行う場である．今回の水サミットのメインゲストは，キバキ前大統領であった．こういう会議の格はメインゲス

トで決まる．主催者は前大統領を引っ張り出したのだ．これはかなりの力の入れようである．

事前準備の段階で筆者が連絡を取った際，そのやりとりをする事務局の対応もまずまずしっかりしているし，インターネットに掲載されている水サミットのホームページもしっかりしているので，結構「ちゃんとした」サミットであることは伺えた．それに，開催前日には，ナイロビの全国紙に 1 ページをまるまる使っての広告が出て，そこには，外国人の発表者が珍しいのか，筆者も顔写真入りでゲスト・スピーカーの方々と並んで紙面を飾っていた．

とはいえ，この水サミット計画には，驚きとともに疑問を感じた．というのは，トゥルカナ湖の周辺には小さな漁村や町があるものの，2 日間で延べ 1,000 人を超える参加者があると予想される中，現地には会議場も大型宿泊施設も全くないのだ．会議の場所は，Eliye（エリエ）と云う名の湖畔の小さな村の付近だという．ここは，筆者（村上）が現在実施している干ばつ対策事業でパイロットコミュニティとして選定した 11 コミュニティの中の一つで，何度も足を運んだ良く知っている場所である．会議案内には，エリエ村の「Kristine Camp」と記述されていた．筆者は，それが「キャンプ・シュワブ」に代表されるキャンプという名の軍事施設で，私が知らないだけで，多分村の近くにそういう施設があるのだろう，という程度の認識で会場に向かった．しかし現場に到着すると・・・「キャンプ」は，キャンプ・ファイヤーの方の「キャンプ」であった．会議会場は湖畔の砂地に立てた大きなテント．そして宿泊施設は，1 人用の小型テントであった．これらが延々と湖畔の砂地に並んでいた．気になるトイレは，移動式簡易トイレが 10 基ほど．シャワーのブースは 4 カ所設置され，水はタンクローリーで近隣の泉から運搬する．食事は朝昼晩とも主催者がキャンプの脇で作りビュッフェスタイルで提供してくれる．というわけで，インターネットや携帯電話が使えない陸の孤島であること，テントが狭いこと，を除けば，人間らしい生活ができることがわかり，当初の不安や疑問は氷解した．

写真 3. 湖岸に設営された会場全景

写真 4. 講演会場の中の様子
200 名以上が座れる広さ

写真 5. 延々とならぶ個人テント宿泊施設
対角線に寝ても足が出る狭さ

トゥルカナの照りつける灼熱の太陽のもとで，キバキ元大統領の開会の挨拶で水サミットは開始された．日本政府は当方が携わる支援事業のみならず，トゥルカナの地で草の根無償事業なども行っている．その関係もあり，在ケニア日本大使館からは公使がかけつけ，ゲストスピーチを行った．

会議自体の内容は極めて興味深く，真面目なものであったが，テントの屋根越しにヒシヒシと伝わるトゥルカナの強烈な太陽光線の熱波と，時折湖畔から流れる清涼感あふれる浜風のダブルパンチで，集中力を保つのが大変だった．それでも皆，かなり真剣に真面目に会議に参加していた．逃げ場がなく，会議に出席する以外に他にやることがないせいかも知れないが．

筆者（村上）のスピーチは“JICA's Experiences in Community Drought Resilience Project in Northern Kenya - Community's Action for Sustainable Maintenance of Borehole with Solar Power ”である．事業紹介の為のプロジェクト展示ブースには，キバキ元大統領や日本大使館公使をはじめ多くの方々が訪れ多くの質問も寄せられ盛況であった．

写真 6. キバキ前大統領が日本工営の展示ブースを訪問
（説明者は村上リーダー）

今回の水サミットでの一番の目玉は「トゥルカナで発見された巨大地下水盆」の話ではなかったかと思う．これは，ケニアのメディア各社が一斉に，「トゥルカナ県で今後数十年に亘って長期間利用可能な地下水脈が発見された．これでケニア有数の乾燥地であるトゥルカナは水不足から開放される」と報道したものである．一部日本でも報道された．この衝撃的な「明るい」ニュースは，実際の状況とかけ離れたデマレベルのものであり，話が広く伝わるに従い，真実を知る私としてはヤキモキしていた．しかし，この話題について会議中，「地下水はあるが，実は塩分濃度が高く，人間用どころか家畜用の飲み水としても不適」であることが，調査機関の UNESCO の担当者から正式に発表されたのである．これは多くのケニア政府や地元の関係者に灼熱の熱波以上の衝撃を与え，失意のどん底に追い込んだのであった．

誤解の拡散

牧畜民コミュニティを相手に仕事をしていて思うのだが，当方が住民に伝えたいこと，住民に知っておいて欲しいと思う事項について，いくら住民集会を開いて周知徹底しようとしてもなかなか伝わらない．時には誤解されることもある．筆者（村上）の東南アジアでの経験だが，ある田舎の村で灌漑工事を始めたら，「戦時中に日本軍が埋めた財宝を日本人が掘りに来た」というデマが拡がり閉口したことがある．まことしやかなデマは，どんどん拡散していく．間違った情報でも繰り返し報道されると，それが真実であると受け止められてしまう．発展途上国の開発に携わる者は，相手側の受け止め方や受け入れ可能性などに十分に配慮しつつ，慎重に事に当たらなければならないと改めて感じる．

おわりに

筆者（村上）のケニアの業務終了・帰国が迫っているため，丸 1 年 4 回続いたこのコラムを一旦終了することとしたい．本稿の掲載を快く受け入れてくださった日本沙漠学会の関係者の方々に深く感謝の意を表する次第である．

（了）